

2014年度自己点検・評価報告書(シート)

【目標の進捗状況(達成度)評価・報告】(最終年度)

《大学》

担当(記述)部局は、 ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

本報告書(シート)の自己点検・評価項目・要素と担当部局は次のとおりである。

対象部局	言語コミュニケーション文化研究科
大項目	11 教員・教員組織(研究科)
中項目	
小項目	11.0.1 大学として求める教員像および教員組織の編制方針を明確に定めているか。
要素	教員に求める能力・資質等の明確化 教員構成の明確化 教員の組織的な連携体制と教育研究に係る責任の所在の明確化
小項目	11.0.2 学部・研究科等の教育課程に相応しい教員組織を整備しているか。
要素	編制方針に沿った教員組織の整備 授業科目と担当教員の適合性を判断する仕組みの整備 研究科担当教員の資格の明確化と適正配置(院・専院)
小項目	11.0.3 教員の募集・採用・昇格は適切に行われているか。
要素	教員の募集・採用・昇格等に関する規程および手続きの明確化 規程等に従った適切な教員人事
小項目	11.0.4 教員の資質の向上を図るための方策を講じているか。
要素	教員の教育研究活動等の評価の実施 ファカルティ・ディベロップメント(FD)の実施状況と有効性

II. 目標の進捗状況(達成度)評価と報告【2014.4.30現在】

《進捗状況(達成度)評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況(達成度)の自己評価を行っている。進捗状況(達成度)評価は、目標の2014年4月30日現在における進捗状況(達成度)の評価(2013年度1年間の活動評価ではなく、2014年4月30日現在で目標がどこまで進んだかの評価)であり、A、B、C、Dの4段階で行ったものである。A、B、C、D評価の基準は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗状況(達成度)評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 増加する後期課程学生・研究員への対応のため、後期課程指導教員、後期課程セミナーの担当者を増員する。	→後期課程指導教員数。言語コミュニケーション文化セミナーの担当者数。	A	A	A	A	A
2. 教員の資質向上を図るため、FDワークショップを毎年実施する。	→FDワークショップの開催数、参加者数。成果公表。	B	C	B	A	A
3. 各研究領域の教員数に関する基本方針を明確にし、アンバランスを是正する。	→基本方針の策定。	B	B	B	B	B
4. 2007年に開設した日本語教育学プログラムの充実のため、日本語教育担当教員の採用を行う。	→途中退職者の教員補充の円滑な実行。	B	A	B	B	B

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

《進捗状況(達成度)報告》 担当(記述)部局は「指標」に基づいた報告をしてください。

上記で自己評価した目標の進捗状況(達成度)について、次のとおり説明・報告する。

目標1	A	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 研究科執行部会および後期課程指導教員任用審査委員会で任用候補者を選定し、審査の結果、当該期間中に12名を後期課程指導教員として任用した。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 目標設定時より後期課程指導教員が10名増え、後期課程学生の増加に対応することができた。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 今後も、研究業績のある教員を積極的に後期課程指導教員に任用していきたい。	☆
		その他	☆

目標2	A	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 研究科執行部を中心としたFD委員会において企画し、ほぼ毎年FDワークショップを実施した。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か ほぼ毎年FDワークショップを実施し、多くの教員が参加し、教員の資質向上を図ることができた。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 今後も、毎年FDワークショップを実施する。	☆
		その他	☆
			☆
目標3	B	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 研究科執行部において、各研究領域の教員数に関する基本方針を検討したが、明確な基本方針の策定はできなかった。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 各研究領域の教員のアンバランスはある程度緩和されつつあるが、明確な基本方針が策定できなかったため、解消するまでには至っていない。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 継続課題として、今後も明確な基本方針策定を目指す。	☆
		その他	☆
			☆
目標4	B	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 研究科の意向だけでは日本語教育担当教員の採用は実現しないため、言語教育研究センター等に協力を依頼し、2011年度に1名の日本語教育担当教員を採用することができた。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 当該期間中に1名は採用できたが、日本語教育学プログラムを十分に充実させるまでには至っていない。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 言語教育研究センターや国際連携機構に協力を要請し、学長府に日本語教育担当教員の増員を要求する。	☆
		その他	☆
			☆
備考		☆	